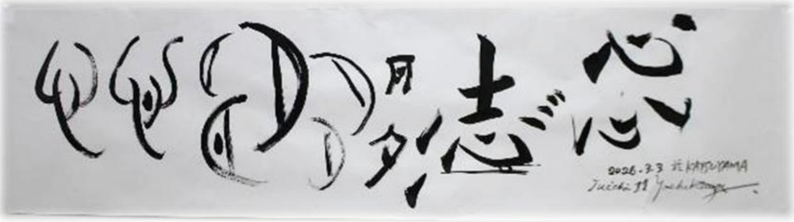
Rotary
勝山ロータリークラブ
よいことのために手を取りあおう
地区基本方針
未来へつなぐ
No. 40
令和8年6月16日発行
2025～26年度　RI第2650地区
創立 昭和36年6月28日
承認 昭和36年8月　3日

勝山ロータリークラブ週報



例会日　毎週火曜日　12：30～13：30
例会場　勝山市市民交流センター
〒911-0811　福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
TEL 0779-87-7761　FAX 0779-87-7760
URL：https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama
Email:katsuyamarc@gmail.com
■会長　滝川 博則　■幹事　辻 利津子
編集発行・文責　公共イメージ委員会

会長メッセージ　～　縁（えにし）を継なぐ　～

第3127回　例会　（6月9日）

●会長スピーチ　　会長　滝川 博則

まずは、6月2日に行われました長山公園清掃にご参加いただきました皆様、大変お疲れ様でした。

早朝よりの作業ではありましたが、会員の皆様のご協力により、地域の憩いの場である長山公園が大変きれいになりました。

奉仕活動は決して派手ではありませんが、地域に対する思いを形にする大切な活動であり、改めて感謝申し上げます。

さて、6月に入り、勝山市民交流センターでの例会も、本日を含め残り2回となりました。1年の終わりが少しずつ近づいていることを感じております。

そのような中、今週6月14日には、第22回勝山恐竜クロカンマラソンが開催されます。当クラブでも、君原健二さんのサイン会に協力をさせていただきます。

君原さんと勝山とのご縁を振り返りますと、2004年、勝山市制50周年記念事業として開催された「恐竜マラソン」にまでさかのぼります。

当時のロータリー会員でありました江頭信智氏と君原さんとのご縁により、当時としては大変珍しい“ゲストランナー”として、君原さんを勝山へお招きすることとなりました。

当時の会長は鷲田さん。元町の歩道橋には「君原さんと走ろう」の垂れ幕が掲げられ、中部中学校での講演、ロータリー例会や懇親会なども開催され、勝山と君原さんとの交流は大変深いものとなりました。

私は、これこそロータリーらしい事業だと思っております。一人の会員のご縁が、人と人をつなぎ、その輪が地域へ広がり、勝山のためになる事業へと発展していく。まさに「ロータリークラブ　クロス」とも言える、人のつながりの力であります。

その君原さんですが、今回の来勝をもって最後の参加とお聞きしております。長年にわたり勝山を応援していただいた感謝の気持ちを込め、ぜひ皆さんでサイン会を盛り上げてまいりましょう。

●ニコニコ報告　　織田　昌弘

会員誕生	和田達也・多田慶一郎・田中三津彦
伴侶誕生	滝川博則
届出欠席	斎藤清一郎

●幹事報告　　幹事　辻 利津子

◆到着物

〇地区大会本会議での「戦後80年特別シンポジウム『平和の未来を語る』」ＤＶＤ
地区大会実行委員会

〇社協からこんにちは　　勝山市社会福祉協議会

〇青少年育成福井県民会議　会員総会
青少年育成福井県民会議

●委員会報告

●次年度公共イメージ委員会　　辻 利津子

・６/6公共イメージ委員長会議（ZOOM）にて、次年度の地区HPの活用について、クラブ内のみで閲覧できるページが追加されることになりました。

・マイロータリーへの登録を改めてお願いします。

●　　鷲田 政憲

勝山マラソン大使の君原健二氏をお招きした当時の週報や写真をご紹介します。

ポール・ハリス・フェロー認証
上山弥一会員
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー認証
山内政司会員

●出席報告　　山内 智子

6月9日	欠席2名	90%
6月2日	欠席7名	65%

本日 プログラム	クラブ協議会	6月23日 プログラム	最終例会	7月14日 プログラム	クラブ協議会	7月21日 プログラム	クラブ協議会

クラブ協議会　活動報告①

●会長　滝川 博則

2025年7月1日から始まりました本年度の活動も、いよいよ終わりを迎えようとしております。振り返りますと、多くの出会いや学びがあり、私自身、様々な挑戦をさせていただいた一年であったと感じております。

特筆すべきは、2015年の出会いから始まったアメリカ・ボーズマン市への訪問が実現したことです。当初は本当に行けるとは思っておりませんでしたが、様々なご縁に恵まれ、現地市長のもとで姉妹クラブ契約を締結するに至りました。お互いが訪問しあい、一つの区切りを迎えることができました。このご縁を今後どのように活かしていくかが、これからの課題となります。個人的には、次年度担当いたします青少年の育成において、この貴重な経験を勝山の子どもたちに還元できるような事業を構築していきたいと考えております。

また、本年度の例会活動を振り返りますと、上山委員長が「人生100年時代」というテーマを掲げ、充実した会員卓話やゲスト卓話が企画されました。多くの方々のお話を伺うことができ、非常に学びの多い例会であったと感じております。親睦活動におきましても、幅田委員長を中心に様々な企画を練っていただき、多くの場面で楽しい食事の機会を持つことができました。

週報に関しましては、毎週質の高い週報が発行されました。これはクラブの歴史そのものであり、貴重な財産です。今後もペーパーでの発行を続けつつ、デジタルでのアーカイブ化も検討できればと考えております。

対外的には、地区大会やIMへの参加を通じて、多くのロータリークラブの方々と交流する機会がございました。亡き渕上会員から「地区に出て、多くの人と出会うことが重要だ」と伺った言葉を重く受け止め、今後も皆様と共に積極的に地区の活動へ参加していきたいと考えております。

会長という大役を拝命した当初は、務まるかどうか不安でいっぱいでしたが、会員お一人お一人のご協力のおかげで、なんとか一年を乗り切ることができました。ロータリーという組織の素晴らしさを改めて実感しております。皆様のご支援のもと、この襷を次年度へしっかりと繋いで参りたいと存じます。

●ＳＡＡ　織田 昌弘

一年間、SAAを務めさせていただきました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

本年度は、例会のスムーズな運営を目標に掲げ、時間厳守を概ね達成できたかと存じます。また、会場の机を3テーブルに集約する試みを行いました。食事の際や会合の際に席の向きを変える必要があり、一長一短はございましたが、これも一つの試みとして、今後の参考にしていただければ幸いです。

席替えにつきましては、2ヶ月に1回のペースで実施いたしました。当初は全ての会員が異なる方と隣り合わせになるよう配慮しておりましたが、途中からはその調整が難しくなり、同じ組み合わせになってしまったこともあったかと存じます。いっそのこと、毎回くじ引きで決める方がシンプルで良いのかもしれないと感じました。

会場設営に関しましては、月ごとの当番制でご協力をお願いいたしました。私が会場に到着するよりも早く準備を始めてくださっている方も多く、大変助かりました。

反省点としましては、特に今年度は食事の時間が短く、ゆっくりと会話を楽しむ余裕がなかったことが挙げられます。セレモニーや委員会報告など、時間のかかるプログラムがある場合は、食事の時間を十分に確保できるような工夫が必要だと感じました。試験的に実施したランチ例会のように、食事と会話を中心とした例会も、今後の選択肢の一つとして有効ではないかと考えております。

●会計　山内 政司

会計としての一年間、皆様にご協力いただきありがとうございました。いつも資金に関する厳しい話ばかりで恐縮ですが、ご報告させていただきます。

本年度は、アメリカへのクラブ訪問に際し、特別会計から30万円を繰り入れて予算を組みました。また、近年のバス代高騰を受け、地区大会などへの参加に際しては、今後も大野ロータリークラブとの合同での移動を検討するなど、経費削減に努める必要があると考えております。

些細なことではございますが、本年度は例会での食事が余ることが多かったように見受けられます。出欠の連絡を徹底していただくことで、無駄な支出を減らすことができますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

次年度への繰越金につきましては、現状では100万円を下回る見込みです。これは近年なかった厳しい状況であり、詳細は改めて理事会等でご説明し、皆様にご理解を賜りたいと存じます。

最後に、財源の確保については、本年度も十分な成果を上げることができませんでした。ボーズマンサンライズRCとの交流継続など、今後も資金が必要となる活動が見込まれます。一般会計、特別会計の両面から、クラブ財政について皆様と共に考えていく必要がございます。

●会員増強退会防止委員会　和田 耕三

一年間、会員増強と退会防止にご協力いただき、ありがとうございました。

年度当初は23名の会員でスタートいたしましたが、残念ながらご逝去された方、体調不良により退会された方がおられ、年度末の会員数は21名と、1名減という結果になりました。会員増強はクラブにとって永遠の課題です。本年度も、会員の皆様から候補者を挙げていただき、その方と親しい会員が中心となって、時間をかけて丁寧にお誘いする方法が有効であると再認識いたしました。また、例会にゲストとしてお招きし、会の雰囲気を知っていただくことや、勧誘の進捗状況を全会員で共有することが重要だと感じております。来期に向けても、入会の可能性が高い方が複数いらっしゃいますので、引き続き勧誘活動を継続し、新たな仲間を迎え入れたいと考えております。

●公共イメージ委員会　斎藤 清一郎

公共イメージ委員会の第一の使命は週報の発行であり、本年度も全例会において週報を発行できたことが最大の成果です。

皆様に読みやすい紙面となるよう、写真の掲載を多くするよう努めました。また、事務局が文字変換ソフトを活用されたことで、編集作業が大幅に効率化されたことも、大変喜ばしい点です。

さらに、「会員コーナー」を設け、多くの皆様から原稿をお寄せいただき、写真と共に掲載いたしました。ご協力いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

反省点としては、当初予定しておりました公共施設への週報の配布が実現できなかったことが挙げられます。ロータリーの活動を広く市民の皆様に知っていただくという点で、これは来年度以降の課題かと存じます。

会長からもお話がありましたが、現状の紙媒体での発行に加え、ウェブサイト上での配信も検討する価値があると考えております。アーカイブとしての保存も容易になりますので、ぜひ次年度以降、実現できれば幸いです。

●プログラム委員会　上山 弥一

本年度は、「人生100年時代」というテーマを設け、会員卓話とゲスト卓話を中心にプログラムを構成してまいりました。しかしながら、その取り組みが例会出席率の向上に直結しなかった点は反省すべき点だと考えております。一方で、親睦活動委員会と連携し、食事と会話を楽しむランチ例会を開催できたことは、大変有意義であったと感じております。

本年度のテーマに基づき、会員卓話のトップバッターを亡き渕上会員にお願いできたことは、今となっては大変貴重な思い出となりました。

会計報告にもありました通り、クラブの財政が厳しい状況にある中で、いかにして充実した例会を企画していくかが、次年度以降の大きな課題となります。皆様と共に知恵を絞って参りたいと存じます。一年間、本当にありがとうございました。